

議会だより

伊那市議会事務局

TEL 02665-968149
FAX 02665-769117
E-mail gki@inacity.jp

Vol.47

伊那市議会9月定例会では19議案と請願・陳情4件・議員提出議案1件が提案され審議を行いました。今定例会に上程された議案を紹介します。

全会一致で可決された議案

(規約案件)

◆上伊那広域連合の処理する事務及び上伊那広域連合規約の変更について
(ごみ処理広域化に伴う変更)

(条例案件)

◆伊那市福祉医療費給付金条例の一部改正
(児童扶養手当法施行令改正に伴う改正)

◆伊那市公民館条例等の一部改正
(手良公民館及び手良支所の移転に伴い、位置及び公民館施設使用料の規定等の改正)

(平成27年度決算認定案件)

◆伊那市一般会計歳入歳出決算認定

◆伊那市国民健康保険直営診療所特別会計ほか特別会計4会計歳入歳出決算認定

◆伊那市水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び決算認定
◆伊那市下水道事業会計資本剰余金の処分及び資本金の額の減少並びに決算認定

◆伊那市自動車運送事業会計決算認定
(予算案件)

◆平成28年度伊那市一般会計第2回補正予算
○主な補正内容

- ・ふるさと応援基金積立金
- ・定住自立圏バス時刻表作成委託料、空き家バンクホームページ作成委託料
- ・伊那市プロモーション動画放映委託料
- ・介護ロボット等導入支援事業

◆平成28年度伊那市国民健康保険直営診療所特別会計第1回補正予算

◆平成28年度伊那市介護保険特別会計第1回補正予算

◆平成28年度伊那市営駐車場事業特別会計第1回補正予算
(一般案件)

◆請負契約の締結について
(高遠スポーツ公園文化体育館)

耐震補強工事請負契約締結

(議員提出議案)

◆TPPに関する十分な情報開示と臨時国会で拙速なTPP協定の批准を行わないこと、並びに持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める意見書の提出

全会一致で決した請願・陳情

(採択)

◆臨時国会で拙速にTPP協定を批准しないこと、情報開示の徹底、持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める陳情

◆臨時国会でTPP協定を批准しないことを求める陳情
(不採択)

◆中国共産党政府による法輪功迫害の停止と、臓器の強制摘出の停止のため、日本政府の正義の行動を求める意見書に係る陳情

『伊那市ソーシャルフォレストリー都市宣言』

平成28年2月に策定した「伊那市50年の森林(もり)ビジョン」の実現に向けた「伊那市ソーシャルフォレストリー都市」を、定例会最終日に、市長が宣言しました。

賛否の分かれた議案等(審議結果と各議員の賛否一覧)

○…議案、請願・陳情に賛成 ×…反対
なお、原則として議長は採決に加わりません。

区分	件名	委員会結果	白鳥敏明	野口輝雄	丸山敬一郎	八木 択真	唐澤 千明	唐澤 稔	橋爪 重利	宮島 良夫	竹中 則子	中山 彰博	平岩 國幸	飯島 進	若林 敏明	飯島 光豊	柴 満喜夫	前澤 啓子	前田 久子	柳川 広美	飯島 尚幸	伊藤 泰雄	黒河内浩(議長)	本会議結果
条例案件	◆伊那市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○		可決
決算案件	◆平成27年度伊那市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○		可決
請願・陳情	◆原子力発電所の再稼働を中止するよう政府に求める陳情	不採択	×	×	○	×	×	×	○	○	×	×	×	-	○	○	×	○	×	○	×	×		不採択

9月定例市議会 一般質問から

伊那市議会9月定例会の一般質問は、9月14日、15日、16日の3日間にわたって行われ、20人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。



竹中 則子

中学生国内派遣事業について

問 竹中則子議員 中学生の国内外への派遣事業を実施していただきたい。

答 市長 実施は困難だが、ICTを通して、幅広く情報交換する機会も持っている。

市内中学生サミットの成功に拍手を

問 竹中則子議員 市内6中学校による「10年後のふるさとを考える」サミットに寄せる市長の思いを。

答 市長 こうした子ども達が地域に残るように、地域の素晴らしさ、未来への夢を育み

唐澤 千明



生活の場として学童クラブが果たす取り組みについて

問 唐澤千明議員 ①学童クラブの現状と課題について、増加の要因と待機児童の有無は。②学童クラブの開設時間を午後7時までに延長する考えは。③西箕輪小学学童クラブの移転について、現施設の様々な問題をクリアするには小学校内かその周辺への移転が必要だが考えを。

答 教育次長 ①夫婦共働き、核家族化、一人親家庭の増加で利用者は年々増加している。待機児童を抱えた事例はない。②条例では午後6時までとしているが、6時30分までに保護者に迎えに来てもらうことになっている。やむを得ない場合は指導員が超過勤務で対応している。時間の延長は考えていない。③老朽化して手狭になっていることから、来年度中に移転できるよう検討を進めている。

マウンテンバイクによる地域活性化について

問 唐澤千明議員 みはらしファーム周辺でのマウンテンバイクを活用した地域活性化への考えは。

答 市長 長谷のコースは雑誌でも取り上げられ好評。みはらしファームでも取り入れていきたい。

前問

唐澤千明議員 みはらしファーム周辺でのマウンテンバイクを活用した地域活性化への考えは。

答 市長 長谷のコースは雑誌でも取り上げられ好評。みはらしファームでも取り入れていきたい。



前田 久子

市民の健康、体力増進から見る、公園整備について

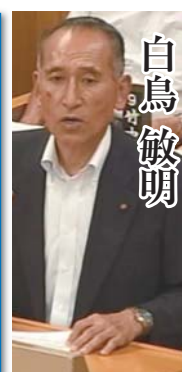
問 前田久子議員 ①子育てしやすい町日本には、父母祖父母から要望の強い、家族で楽しめる公園整備は必須。公園整備検討組織の設置を。②公園内に健康遊具設置が注目されている。美原公園に7基、伊那公園に健康歩道がある。使用方法の周知と市内公園への健康遊具設置を望む。また地域の公園の充実が子育て環境日本一の大事な条件。保護者の意見を基に安全な遊具の充実を。③市内の公園は小学生高学年、中学生の使える遊具がなく、家に籠る事が多くなり体力不足に繋がる。市は「生きる力のある子ども」を目指して幼児期をスター

答 市長 長谷のコースは雑誌でも取り上げられ好評。みはらしファームでも取り入れていきたい。

トする。小中高と逞しさを身につけるため、楽しみながら体力、持久力をつけるアスレチックの設置を市内の公園に。

答 市長 ①新たな公園建設の場合は設置を検討する。②設置場所と使い方の周知を進める。魅力ある公園整備は人口増に必要な環境整備なので、市民の声を反映して遊具を設置、更新していく。③大きな経費をかけての設置は困難だが、豊かな自然を活かして、ますみヶ丘平地林のセラピー等、周辺一帯を含め新たな活用を検討する。

白鳥 敏明



学校給食施設整備計画について

問 白鳥敏明議員 新給食施設は、汚染・非汚染区域が厳格に壁で仕切られ、移動や着替えに時間を要する。調理人員の見直しの必要は。

答 教育次長 旧施設は壁で仕切られていないが、床を色分けして実施している。移動や着替えに新旧施設に大きな差はな

く、新施設の調理人員の見直しは考えていない。

問 白鳥敏明議員 調理機器はガス方式だが、環境に配慮したオール電化の採用は。

答 教育次長 厨房機器の熱源検討で、回転釜は災害時でも使用可能なガスを、ボイラーは森林資源の保護活用から、ペレットボイラーを採用した。オール電化は初期費用が4倍程かかり、費用削減の観点から不採用とした。

問 白鳥敏明議員 美篤小学校新給食施設の建設時期は。また未使用の教員住宅を撤去し建設用地として、現給食施設は学童クラブ施設への転用検討を。

答 教育次長 新給食施設は来年度設計を行い、平成30年度、現敷地に建築面積320㎡程度で計画している。教員住宅は移住定住お試し住宅として確保。現給食施設の学童クラブへの転用は、新給食施設建設場所の動向と費用面を考慮し関係者と相談したい。



野口輝雄

信州山の日の制定と伊那市の山岳観光・山岳教育について

問 野口輝雄議員 一般市民向けの山岳イベントを増やし、学校での山に親しむ教育や山岳遺産広報の更なる強化を望む。

答 市長 これまでにも市民対象の山に親しむイベントを実施してきた。エコパーク・ジオパークが身近なものである事を繰り返し広報していく。

教育長 山に親しむ教育は、各学校独自に進めている。

伊那市公民館の更なる活性化についての提案

問 野口輝雄議員 公民館で結婚披露宴が出来ないか。

また、全六公民館に飲料自動販売機の設置と冷暖房費を無償とすることは出来ないか。

答 教育長 希望があれば披露宴は受け付ける。自動販売機は業者の応札次第。冷暖房費は受益者負担と考えている。

小中学校の教育現場より

問 野口輝雄議員 ICTを進めると同時に、教職員の毎日の授業をサポートできる機器の整備や予算確保を望む。

答 教育長 教育の質的改善のため、ICT教育を推進しており、この取り組みの中で検討していきたい。



唐澤稔

伊那市における森林について

問 唐澤稔議員 林業における今後の取り組みについて、どのように考えるか。

答 市長 林業は大変重要な産業であり、様々な活動の支援に取り組んでいる。林道整備に関しても、路網整備は重要であり、地元の見聞きながら進めていく。

問 唐澤稔議員 獣害、松くい虫の被害の状況は。

答 市長 ニホンジカを中心に対策をとっている。捕獲数は減少しているが中央アルプスにも広がっている。松くい虫被害も拡大しており、枯れる前の材利用や、樹種転換等により対応する。

問 唐澤稔議員 間伐材の有効利用は。

答 市長 木質ペレットとして、学校給食、福祉施設、さ

くらの湯等にペレットボイラーを導入して活用している。

山岳観光の現状と今後について

問 唐澤稔議員 山岳観光の現状と取り組みは。

答 市長 山小屋の利用は好調である。入笠山、守屋山は、トップシーズンになれば市外の人達で賑わっている。また、近隣の山の日帰りツアーも企画している。公民館主催の市民登山もあるので気軽に参加してほしい。



橋爪重利

信州型コミュニティスクールについて

問 橋爪重利議員 運営委員会との役割に、学校評価とあるが支援ボランティアも評価されるのか。

答 教育委員長 学校評価は、運営委員会が学校の取り組みに意見を述べるものである。

問 橋爪重利議員 教育の主要施策として「はじめに子どもありき」の教育理念のもとに、自然・歴史・文化に学ぶ郷土を愛する心を育てる地域に根ざした

教育の振興を図ると定めてあるが、信州型コミュニティスクールとの関係は。

答 教育委員長 コミュニティスクールは、地域の参画を得て、地域の子どもを地域で育てる体制作りの理念を具体化した事業。

問 橋爪重利議員 市内小中学校の状況は。

答 教育委員長 すべての学校で設置済み。

耕作放棄地等について

問 橋爪重利議員 減反施策が経過する中で、農家離れや耕作意欲の低減により、遊休農地や耕作放棄地が多く見られるが、取り組み状況は。

答 農業委員長 新規就農者・後継者の育成。農地の集積・集約・農地に関する情報の発信を進める。

問 橋爪重利議員 長藤・藤沢地区の耕作放棄地解消を観光資源保全としての施策としたらどうか。

答 市長 地域・民間・行政に取り組み。

飯島尚幸



合併10年から財政健全化 に向かう市長の信念について

問 飯島尚幸議員 新市のスタート時(平成18年3月)、三市町村が持ち寄った地方債(借金)の残高は、894億6千万円。これまでの返済への取り組みは。今後の財政運営では費用対効果など慎重な分析を進める中、選択と集中の判断が一層求められるがその決意は。

答 市長 財政の健全化は最重要課題。未収金回収の努力や企業誘致など、積極的に対応してきた。これからは、人口減少に伴う税収減や高齢化による扶助費の増加など厳しい環境が見込まれる。一方で、新ごみ中間処理施設や環状南線をはじめ幹線道路整備など主要事業が数多くある。選択と集中に心がけ、借金については「返すより多く借りない」との基本姿勢を維持していく。

市の就学援助事業について

問 飯島尚幸議員 生活保護家庭、生活困窮世帯など

幅広く高校生を援助する市独自の奨学金制度の創設を強く望むが。

答 教育長 県下19市で12市が実施しており、伊那市は人口増進施策なども考慮し、必要に応じ研究する。



伊那まつりの 名称変更について

問 若林敏明議員 伊那まつりは前身の勘太郎祭りを加え来年60回を迎える。今回の名称を変更する意図はどこにあるか。また、祭りの核である市民踊りについての見解は。

答 市長 伊那まつりは市民が主役の祭りでありそれは今後変わらないが、加えて、近隣や都会から観光や踊りを目的に訪れることの出来る祭りに魅力アップさせたい。名称変更もその一つである。子どもの頃に踊りで楽しんだ経験は次世代にも引き継がれる。今後も実行委員会でも総合的に検討していきたい。

ICT推進事業・教育について

問 若林敏明議員 伊那市はICT推進に取り組んでいるが、特に教育分野は先駆的である。その成果や課題は。今後、中山間地の小規模校であつてもできる国際交流に取り組んではどうか。

答 教育長 遠隔地合同授業は学習のみならずコミュニケーションにおいても成果を挙げている。グローバル化社会に向け、海外との交流を持つことは大切な機会であると考えている。

問 丸山敞二郎議員 家族農業への手厚い支援を。

答 市長 市内の農家は、小規模な兼業農家が多い。こうした農家が農地を守ってきた。国の施策を活用するには一定の要件があるが、農家の大小にかかわらず、これからも支援していく。



伊那市の農業について

問 丸山敞二郎議員 農業ボランティアの創設を。

答 市長 広域シルバー人材センターで草刈などの仕事をしてくれる。料金も安くなっている。各地域の農業組合法人の中にそうした組織ができるよう支援していく。

宮島良夫



保育園の園庭等の管理について

問 宮島良夫議員 保育園の園庭管理を保育士の家族が休日に行っている園がある。

答 市長 環境の保全という観点から草刈は必要。シルバー人材センターの活用も考えてみたい。芝生化で全て芝生にする必要はなく、雑草も身近な自然環境の一つと考えている。

正規保育士の増員について

問 宮島良夫議員 正規保育士の増員をするべき。

答 市長 伊那市の保育士の正規率は41%。県平均の34%に比べて高い。職員採用については、定員適正化計画に沿って対応していく。

雇用の安定と労働環境 づくりについて

問 宮島良夫議員 「総務省の2014年通知」を踏まえ、臨時職員の正規職員との均等待遇を図り、待遇改善をするべき。

また、雇用期間の上限を設けないようにするべき。

問 市長 業務内容、責任の度合いが異なる。そういった意味では均等待遇ではない。職務の内容とバランスのとれた均衡待遇の確保を目指す。雇用更新年限については、確保が困難な職種は任用更新年限を設けていない。

答 市長 市独自の調査は行っていない。19市で県レベルでの手法の確保を要望してある。

子ども・子育てと次世代育成支援

問 宮島良夫議員 長期休業中の児童クラブに給食の提供をどうするか。

答 市長 休業中、施設では、普段できない箇所の清掃や研修などを行っており、現段階で給食を提供するのは課題がある。

子どもの貧困対策について

問 宮島良夫議員 伊那市の子ども貧困率の調査をするべきでは。

答 市長 市独自の調査は行っていない。19市で県レベルでの手法の確保を要望してある。

八木 眞寛



山岳観光の効果と市街地活性化

問 八木眞寛議員 ①山岳観光が投資に見合う市民益を引き出しているのか。ジオライナー等は費用対効果が疑問。市内にお金も落ちない。市街地と戸台口の直通交通こそ必要である。

答 市長 ①東京などの駅でポスターを格安で掲示してくれており、PR効果もある。中心市街地との直通はお金もかかり効果の検証も必要である。②財政など幅広い視点から検討中である。③市は干渉できない。今後の課題。

山荘管理人公募は適切だったか

問 八木眞寛議員 ①山小屋管理人を公募した理由は。②各管理人に公募の方針をいつ伝えたか。③本人が職を失うかもしれない話を直前に伝えるのは異常。不安定で継続した事業計画が立てられない1年だけの契約も問題である。

答 市長 ①新築を機に、新たな管理契約とともに広

優秀な人材を募った。②塩見小屋の管理人には昨年11月、他の3人には今年1月に伝え、1月に公募を発表した。③常に連携して話をしている。1年契約も当初からの決まりである。

伊藤 泰雄



権兵衛トンネル下に「道の駅」設置を

問 伊藤泰雄議員 権兵衛トンネルから下った与地地籍に「道の駅」の設置をしてほしいという要望が多くある。西の玄関口になるので、観光の拠点・案内所として是非設置を。

答 市長 以前にも検討したが、「みはらしファーム」との競合が心配され断念した経緯がある。与地地籍は大変景観もよく、国道361号は岐阜県で改良が進み高山市に来ている観光客の入り込みも期待される。とりあえず、現段階では小規模な休憩所の設置を研究したい。

市民も実感する「子育て日本一」の伊那市実現への提案

問 伊藤泰雄議員 伊那市が名実とも「日本子育てしやすいまち」になるため、共稼ぎ家族に好評のファミリー・サポートセンター協力会員を増やす方策を。

答 市長 市報や行政チャンネルを通じて募集したり、市民大学の学生や元保育士等にも働き掛け、増やしていきたい。

問 伊藤泰雄議員 全国各地で話題になっている「子育てガイドブック」を伊那市でも作成したらどうか。

答 市長 先進事例を参考にしながら研究したい。

平岩 國幸



日本の桜の里づくりについて

問 平岩國幸議員 ナイスロードに桜を植樹する計画はどの様に進んでいるか。

答 市長 三峰川左岸に桜を植樹する計画は具体的にないが、中間ごみ処理場もあり総合的に進めたい。

問 平岩國幸議員 日本一の桜の里づくりを標榜しているが、苗木が少ないのではないか。

答 市長 苗木の育苗については、一般の方に委嘱しているほか、高遠北小学校でも信州大学と共に育苗を行っている。

問 平岩國幸議員 高遠城址公園の北側斜面に桜を植樹したらどうか。

答 市長 公園が国の史跡となつていても考慮しなければならぬ。文化庁との協議も必要であり、国の史跡に桜の植樹は困難と思う。

「仁科盛信公」が祀られている五郎山の整備について

問 平岩國幸議員 由緒ある五郎山近辺を観光名所にする事について考えは。

答 市長 市として積極的に整備する事は多少問題がある。今後地権者との協議の中で可能性について検討したい。

柳川 広美



国による医療改悪により上伊那の急性期病床削減が始まっていることについて

問 柳川広美議員 国に対して急性期病床や療養病床を削減するな、と意見を上げるべき。医療が受けられなくなる。

答 市長 持続可能な制度への転換は必要。地域の実状を踏まえた医療構想を策定するよう県へ意見を上げている。

下水道使用料を全体で6%値上げ諮問をしたことについて

問 柳川広美議員 施設利用率50%の引き上げを。農業集落排水や戸別合併浄化槽事業の赤字額は、今後5年間の水処理率目標は、国基準を上回る繰入を増やし値上げ見送りを。

答 市長 供用区域拡大や隣戸訪問で接続を増やしたい。春富・小出北部・南部処理場を統合するため調査中。農業集落排水は2438万円、戸別合併浄化槽は2150万円の赤字。昨年度は1億円を基準外に繰り入れた。水洗化率目標は今年度末87.5%で今後上方に修正する。下水道使用料だけで運営していくのは難しい。基準外繰入も念頭においていきたい。

飯島進



「新生活運動」(生活改善運動)の推進について

問 飯島進議員 「新生活運動(生活改善運動)が、伊那市全体に浸透するまでの間、平成26年12月に市がアンケート調査をもとに作成した「伊那市生活改善申し合わせ事項」を市民に周知できるように、繰り返し広報すべきと思うが。

答 市長 これからも新たに選出された区長・町総代会の総会において「生活改善申し合わせ事項」の趣旨を説明し、総合支所・支所に区長会等で周知するよう通知を出し、「市報いな」やホームページなどで広報していきたい。伊那市全域に広がるよう、繰り返し広報する事はとても重要な事だと思う。

問 飯島進議員 「新生活運動」という、その地域内で共通する問題について、話し合う事は、その地区や地域の地域力向上につながる。新生活運動は、歴史的に公民館が推進してきた。

公民館活動の一環に「新生活運動の推進」を明確に位置づけるべきと思うが。

答 教育委員長 「新生活運動」の推進は、公民館も協力させてもらうが、区、常会単位で進めた方が良いのではないかと思う。

飯島光豊



どうなる伊那市の介護保険総合事業

問 飯島光豊議員 ①国に対して、今後さらに負担増となる介護保険改悪はやめるよう要請を。②介護認定を希望する人は申請ができ、認定されれば現行相当サービスを使えるか。

答 市長 ①必要に応じて市長会等で協議対応する。②介護認定の申請を希望する場合は申請権の侵害はしない。その上で適したサービスを利用していただく。

消防署員の自殺に關する懲罰委員会の設置及びパワーハラスメントについての認識

問 飯島光豊議員 ①公務災害基金は本件自殺の原

因について、上司らの不適切な指導による公務上の災害と認定したが、上司らの懲罰の理由は。②人事院ハンドブックのパワーハラスメントであったことを認めるか。③公務災害として自殺させてしまったことに対する安全配慮義務責任は誰が負うか。

答 市長 ①職場内の秩序びん乱。②ハンドブックの例示に当てはまると思われるものもあるが、パワーハラスメントに当たるかどうかという判断は難しいという考え。③伊那消防組合の組合長。

柴満喜夫



三市町村合併10年を迎えて

問 柴満喜夫議員 過去10年間の効果と検証について。

答 市長 合併によって得られる有利な財源を活用し、基盤整備を進めてきた。産業、文化、自然を兼ね備え、地方創生に対応できる新しい伊那市が誕生したこ

とが最大の合併効果と考える。財政の健全化には特に力を入れてきた。全国的にも問題となっている少子化、超高齢化社会の対応については国の補助制度を有効に活用してきた。また、若者の定住対策に取り組み、人口の流出、減少抑制に定めの効果があったものと考えている。

リニア中央新幹線11年後開通伊那市の未来について

問 柴満喜夫議員 伊那市が向かうべき方向、目指すものは。

答 市長 県と伊那谷全体で始まっている。道路など社会資本整備と企業誘致、産業振興、観光振興などを同時に進めていかなければならない。11年後を予測し、2次交通の整備も重要。

問 柴満喜夫議員 信州そばは発祥の地「伊那」をアピールしている一方で、中心市街地にそば店が無いが。

答 市長 食べる場所が無いのは致命的。商工会議所や商工会、個人を含めてこのチャンスに体制を整えてほしい。

前澤啓子



子育て支援センターについて

問 前澤啓子議員 西箕輪には子育て支援センターがなく、遠くのセンターに行っている。唯一人口が増えている西箕輪に是非子育て支援センターを。

答 市長 西箕輪地区に子育て支援センターが必要との判断で、設置を前提に準備をしている。早ければ来年にはスタートしたい。

問 前澤啓子議員 伊那市以外の市町村では、子育て支援センターは無料が多い。伊那市も無料にしてほしい。

答 市長 光熱費や保険料もかかる。受益者負担を考えると月額、市内200円・市外400円は適正。

公共交通における行政の責務とは

問 前澤啓子議員 行政は600人の人材と300億円の財政がある。一方住民はすべて無料奉仕。今の公共交通の見直し

は、方針もなく地域の住民に丸投げされているに等しい。全体の整合性を図り、大胆な変更も含め専門知識を生かした路線構築をするのが行政の責務である。

答 市長 コンサルに委託し地域公共交通総合連携計画を作り、これに則り路線分析、住民アンケート、事業者ヒアリング等を行ってきた。現在は、地域住民自ら路線を作り育てる会を立ち上げ、検討をしている。丸投げではない。



中山彰博

問 中山彰博議員 知名度を上げる広報活動を。

答 市長 保存会と協力してビクターセンターや公民館にパンフレットを置くほか、公式ホームページ、フェイスブック等を通じ、定期公演等の情報発信に力を入れている。

問 中山彰博議員 中尾座を教育委員会施設としては。

答 市長 現状の指定管理が、現実的であると考える。

問 中山彰博議員 演目が増え、大道具等も増えている。格納庫設置を望むが。

答 市長 保存会からの聞き取りと、現状調査を行い、補助事業等の活用も検討したい。

問 中山彰博議員 公演の有料化への考えは。

答 市長 入野谷郷で育った素晴らしい伝統芸能であり、有料化も十分な価値があると思う。また、長谷の熱田神社の宮での公演も考えてほしい。

長谷 沢入沢の安全対策について

問 中山彰博議員 沢入沢が太陽光発電パネルを設置してあるが、集落の上流部で、土石流警戒区域の上である。地元はどのように取り組むべきか。

答 市長 関係機関及び関係部署と連携を図っていく。地元区は平素の維持管理、安全確保をお願いしたい。

お知らせ

請願・陳情

請願・陳情書は、定例会開会前に開催される議会運営委員会前日までに提出されたものを、その定例会で審査します。ご提出いただきました請願・陳情は、定例会本会議で委員会へ付託し、審査報告の後、本会議で採決します。

次回12月定例会審査の受理期限は、11月18日です。(期限は、変更となる場合もあります。議会事務局へご確認のうえご提出ください。)

傍聴にお越しく下さい

9月定例会市議会は、122の方が傍聴されました。市議会は、どなたでも傍聴できますので、お気軽に傍聴にお越しください。

なお、団体で傍聴される場合は席に限りがありますので、あらかじめ議会事務局までご連絡ください。

議会中継

議会中継は、伊那ケーブルテレビ「伊那市チャンネル」で放送しています。翌日には再放送も行っていますので是非ご覧ください。チャンネルは次のとおり。

デジタル 11チャンネル

STB(デジタルチューナー)でご覧になる場合は

デジタル C 511チャンネル

次回12月定例会の詳しい放送予定は、「市報いな」12月号をご覧ください。



黒河内 浩 議長

公式フェイスブック

伊那市議会では、公式フェイスブックを開設しています。最新の情報を掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.facebook.com/inashigikai>

「市民と議会との意見交換会」を開催しました

伊那市議会では、開かれた議会、分かりやすく信頼される議会への改革を進めています。その一環として昨年、初めて「市民と議会との意見交換会」を開催しました。

今年も引き続き市民の皆様の声を直接お聞きし、市政に反映したいという思いから意見交換会を8月18日、22日、23日の3日間開催しました。3会場(高遠町総合福祉センター「やますそ」、伊那公民館、伊那市生涯学習センター「いなっせ」)で合計256人の皆様においでいただきました。3分科会に分かれてテーマごとに意見をいただく方式で実施をしましたが、どの会場でも多くの皆様から厳しい意見や建設的な意見、提言などをいただきました。



全体会(やますそ)

総務文教分科会の概要は次のとおりです。

総務文教分科会
テーマ
「あなたにとつての
防災のまちづくり」
「いのちを守る取り組みを
考える」

《高遠町・長谷地区》
防災マップに関して「土石流災害の危険があると指定された河川が周知されているか。公民館に掲示されている地図が変わっているが、いつ変わったか」との意見に対し、議会から「土石流危険渓流は平成27年に変更された。伊那市では現場を調べて順次改定

している。県の指定であり、地区ごとの説明もあった」と説明しました。

今後、各地域・地区での防災マップの周知・徹底に取り組みが必要があります。

また、「自主防災組織の組織内の連携が不安」との意見、「災害時に主要道路を通行可能とするための電柱の地中化」の提案、「防災無線が地区全てに聞こえる対策をとって欲しい」との要望などがありました。

《竜東地区》

避難所について「避難所の運営で地域リーダー等を設けたらどうか。また長期的な避難に備えて風呂やシャワーの設備も必要ではないか」との意見に議会から「避難所に近い職員を担当としており、これに協力してみんなで取り組む」と説明し、設備については検討するとなりました。

建設予定の防災拠点施設について「防災センターは竜西地区にできると聞いているが、竜東地区にもぜひ欲しい」との意見に対し、議会から「防災センターは万が一市役所が被災して使えなくなった時に、災害対策本部を設置できる施設で、通常は貸し館などに利用する」と説明し、検討するものとなりました。

また、「防災倉庫で足りない物資がある。鍵の持ち主もわからない」「住民情報を市は個人情報のため出せないが情報共有できる取り組みが必要」などの意見がありました。

《竜西地区》

災害時の水の確保について「安全な水を確保できるのは伊那中央病院だけだが、今後そのような場所を決めておく必要があるのでは」との意見に対し、議会から「水源地は確保されているが、場所を明確にする必要がある。貯水槽が利用できるかの調査も必要」と説明し、検討するものとなりました。

緊急避難場所について「避難場所の設定に問題のある箇所がある」との意見があり、調査・検討するものとなりました。



総務文教分科会(やますそ)

また「植林による防災が必要」との意見、「長谷地域の一部ではNHKラジオが聞こえない」などの意見がありました。

社会分科会

テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

～地域みんなで子育て応援～

社会分科会の概要は次のとおりです。

《子育て支援への意見》

小規模保育園の時は、川遊び行事には園児全員で参加し、年長児が年少児の面倒を見るなどふれあいの場でもあったが、保育園の統合により、保護者も参加できない年長児のみの行事となり小規模保育園の良さが失われた。また、統合により通園の送迎も負担となり、災害時の送迎リスクもあるので、通園バスの運行充実を図って欲しい。

過疎地域保育園の「休園・閉園」情報が流れると、移住者は敬遠し来なくなる。地域に保育園・小学校がある事が「子育てにぴったりの田舎No.1」の最低条件、過疎地域の閉園条件の見直しをして欲しい。

▼学童クラブ利用者が増加

し、施設も狭く指導員も不足▼保育料が高く、近隣市町村並みに低減を▼延長保育の時間延長を▼子育て支援センターの無料化を▼子ども医療費無料化の拡充をなど、子育て世代の皆さんから改善要望が出されました。

《移住・定住支援への意見》

自然環境に恵まれたこの地域に憧れ移住して来たが、住宅探しが大変であった。移住者向けの住宅入居期間（6か月）の延長と、移住者向け空き家バンクシステムの充実をして欲しい。

また、移住後の支援策として、就業支援の充実や過疎地域移住者への通学補助の増額等の要望が出されました。



社会分科会(いなっせ)

《行政への改善要望意見》

▼大きな道路に莫大なお金を掛けるより、歩道を整備して安全な通学道路の確保を▼将来を考えた人材に投資すべき▼ホームページ主体の情報提示でなく、情報弱者への配慮が必要などの改善要望がだされました。

経済建設分科会

テーマ

「あなたがやりたいまちづくり」

～農林業・商工観光・道路と生活を考える～

参加していただいた皆さんに、活発に意見を述べていただくと、少人数で意見交換をするワークショップ形式としました。3会場で参加者から出された意見の概要を報告します。

《農業・林業》

▼農林業経営者の高齢化、後継者不足・担い手不足▼荒廃農地・耕作放棄地の増加と対策▼農事組合法人化が進んでいるが、今後の経営・運営が課題▼無農薬・有機栽培に力を入れるべき▼林業に対する市民の関心が低く、行政の支援も少ない、もっと光を当ててほしい▼草刈などは

農家にとって大変な作業で、農業のボランティア組織を作れないか。



経済建設分科会(伊那公民館)

《商工・観光》

▼リニア中央新幹線開業に向けて、伊那市のビジョンづくりに今から取り組まないと取り残される▼若者の出店は増えてはいるが、中心市街地の活性化が課題▼観光面では、市民が伊那市の良さに気づき、それを発信することが第一▼「信州そば発祥の地」「高遠石工」「井上井月」を観光の柱に据えて売り出しては。

《道路と生活》

▼生活道路で救急車両の通行がままならない所もある▼道路の改修・補修をもっと迅速に▼環状南線、伊駒、ハイパスなど幹線道路の早期着工▼通学路の安全確保▼上下水道の整備▼高齢化社

会に対応する公共交通網の整備。

以上のような意見がありました。共通する意見として、伊那市としてこれから進む方向を明確にすること。行政と住民との協働による事業の実施を望む声が多く寄せられました。

今後の対応

今年も貴重な意見や提言をいただき、ありがとうございます。

早期に解決が必要な緊急課題や、中長期で取り組む重要課題などに分類し、今後市長などへの提言につなげていきます。

今回、皆様からいただいた貴重な声は、各委員会や調査・研究の後、報告書としてまとめ、公開することとします。

是非ご覧いただきたいと思っております。

